

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10578001				
授業名	アジアの文化と暮らし A	形態	講義	単位	2
担当教員	江藤 双恵				
開講学期	2024年度 前学期	曜日・時限	月曜4限		
授業目的	アジアの各地域の文化と人々の暮らしについて、よその地域の他人ごとではなく、さまざまな形で自分とつながる人々であることを理解し、この講義で学びを自分自身の今後の生き方を考える機会とする。				
授業内容	アジアの地域の中でも特に、東南アジアの文化の特徴を理解するとともに、東南アジア社会が直面する課題について、地域研究的視角から学習し、望ましい発展とは何か、また、今日のグローバルな発展/開発に対して、自分自身のとるべきスタンスを考える。また、主としてタイを事例に、1、文化が開発/発展に与える影響について、2、開発/発展によって社会がどのように変化したか、3、開発/発展によって生じた問題を解決するためのさまざまな福祉的アプローチの特徴について検討する。				
到達目標	アジアにおけるグローバル化の影響とローカルな価値との相克について理解し、異文化を尊重しながら多様な他者との創造的関係を築けるような地球市民としてのリテラシーを身につける。				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	原則、講義方式で授業を進めるが、授業中に課題を課したり、意見を述べてもらう機会を設け、双方向型授業(アクティブラーニング)を心がける。映像や統計などの資料を活用し、現実理解を深めるだけでなく、それらを解説するスキルを身につけられるよう指導する。一部アクティブラーニングの要素を取り入れる。  【実務経験のある教員による授業科目】 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下をご参照ください。 タイでJICA専門家として働く機会を二度得た。「中部タイ酪農開発計画」には「ジェンダー・社会分析」の専門家として、第三国研修事業「女性の役割の強化」には評価チームリーダーとして派遣された。さらに、「開発とジェンダー」をテーマとして、海外青年協力隊二本松研修所などで協力隊員候補生対象の研修や専門家研修の講師も務め、参加型・ワークショップ型研修の運営でも成果をあげている。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	ISBN:9784623090938, 「地域研究へのアプローチ グローバル・サウスから読み解く世界情勢」, 児玉谷史朗・佐藤章, ミネルヴァ書房, 2021年4月				
評価方法	毎回の授業中に提出してもらう課題やリフレクションを総合的に評価する。				
評価基準	評価は100点満点のうち、授業内課題(事前事後学習を含む)、リフレクションを100点の配分とする。100点満点のうち、～59点:不可、60点～69点:C(合格)、70点～79点:B(合格)、80～89点:A(合格)、90～100点:S(合格)とする。				
試験・レポート等のフィードバック	授業内課題を随時評価、また、S-Navi「クラスプロファイル」を通して成績を反映させる。また、課題によってはコメントをつけて返却し、思考を深めるようなアドバイスを行う。				
注意事項及び履修条件	大学規定の通り、出席回数は全授業の3分の2以上がなければならない。				

S: 100～90、A: 89～80、B: 79～70、C: 69～60、D: 60未満

第1回	
事前学習	インターネットや新聞/テレビでアジアに関連する情報に接する。また、履修に向けての心構えとして学生心得を読んでおく。
授業内容	授業の進め方と全授業の見通しの説明、また履修者が臨むべき姿勢に関するガイダンスを行う。
事後学習	授業中に紹介した参考文献に目を通しておく。
参考文献	『地域研究』(JCAS Review) Vol.7 No.1 (2005年6月発行) 大泉敬一郎『老いてゆくアジア』(中公新書) 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法 アジアアフリカ社会研究入門』文化書房博文社(2006年) 児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ: グローバル・サウスから読み解く世界情勢』ミネルヴァ書房(2021年2月発行)

第2回	
事前学習	参考文献を読む。前回授業のノート内容をまとめておく。
授業内容	異文化を相対化するにあたって有効な地域研究の手法について学ぶ。
事後学習	授業で配布された資料を熟読し、地域研究の手法について概要を理解する。
参考文献	『地域研究』(JCAS Review) Vol.7 No.1 (2005年6月発行) 大泉敬一郎『老いてゆくアジア』(中公新書) 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法 アジアアフリカ社会研究入門』文化書房博文社(2006年) 児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ: グローバル・サウスから読み解く世界情勢』ミネルヴァ書房(2021年2月発行)

第3回	
事前学習	前回の授業で学んだ地域研究的なものの見方をすると、日々のメディアが提供する報道はどのように映るか。考えてくる。
授業内容	地域研究的な視覚で著された資料をもとに、これまでのものの見方の偏りについて考える。当然視されていることを疑ってみる重要性に気づく。

事後学習	授業中に紹介された著作の内容について、現在はどうなっているのかをインターネットなどで調べる。
参考文献	『地域研究』（JCAS Review）Vol.7 No.1（2005年6月発行） 大泉敬一郎『老いてゆくアジア』（中公新書） 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法 アジアアフリカ社会研究入門』文化書房博文社（2006年） 児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ：グローバル・サウスから読み解く世界情勢』ミネルヴァ書房（2021年2月発行）

第4回	
事前学習	アジアの地図を手に入れ、どのような地域区分があるか、どのような国があるか、全体像を把握しておく。
授業内容	アジアの地域区分。オリエンタリズムによるアジア観。一つではない「アジア」。
事後学習	「アジア」に関するテレビや新聞、インターネットでの報道や紹介記事をできる限り蒐集しておく。
参考文献	

第5回	
事前学習	東南アジアの地図を見て、どんな国があるか、どんな特徴があるか、現在話題になっていることはどんなことか調べておく。
授業内容	東南アジアとはどんな地域か、その地誌的な概観を理解した上で、「基層文化」の特徴について学ぶ。2017年に行われたタイの前国王の葬儀を事例にアニミスティックな信仰のあり方、大宗教の取り入れられ方などを学ぶ。
事後学習	自分の身のまわりのアニミスティックな信仰、超自然的な力への崇拝や依存について考えてみる。
参考文献	

第6回	
事前学習	東南アジアの「基層文化」について、前回学んだことを復習しておく。特に、東アジア（日本）との共通性について考えてみる。
授業内容	タイ仏教について、僧侶の修行、在家の信仰実践の違いを通じて学ぶ。また、仏教と王権、国家との関係についても理解する。
事後学習	宗教と国家の関係について、タイと日本を比較してみる。
参考文献	『タイを知るための72章』（明石書店 2014年） 『もっと知りたいタイ』（弘文堂 1995年）

第7回	
事前学習	宗教は人々の生活や価値観にどのような影響を与えるか、これまでに学習したことを通じて考えておく。
授業内容	映画「東北タイの子」の一部を視聴し、1980年代（映画作成時）に作られた「開発以前」のタイのイメージを探る。
事後学習	「東北タイの子」の原作小説、映画から学び取れることをまとめておく。映画は地域研究にとってどのような資源になりうるか考える。また、タイの映画事情についてもインターネットなどで調べる。
参考文献	

第8回	
事前学習	前の授業で学んだ「開発以前」のタイのイメージについて整理しておく。
授業内容	1960年代以降に進められたタイの国家経済（社会）開発計画について概要を学び、タイにおける「開発概念」の内容を理解する。さらに、統計などを用いて開発後にどのような経済的、社会的変化があったかを分析する。
事後学習	授業中に配布された資料をよく読み、わからないところはインターネットなどで調べておく。
参考文献	

第9回	
事前学習	開発の功罪について考えておく。日本の場合はどうか。戦後、高度経済成長期の経済と社会について調べてみる。
授業内容	タイにおける開発政策によって生じた環境破壊の事例について映像資料から理解する。
事後学習	授業中に示した資料をよく読み、視聴した映像について理解を深める。できれば授業後にもう一度映像を見て欲しい。
参考文献	児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ：グローバル・サウスから読み解く世界情勢』ミネルヴァ書房（2021年2月発行）

第10回	
事前学習	日本が世界銀行から受けた支援について調べておく。
授業内容	世界銀行、IMFによる支援、日本のODAで行われた様々なプロジェクトについて理解し、それによって人々の生活がどのように変化しているかを学ぶ。特に宗教生活、コミュニティの活動にどのような影響が生じているかに着目する。
事後学習	配布資料をよく読み、資料中のURLをたどってもう一度インターネットサイトから資料を閲覧する。
参考文献	児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ：グローバル・サウスから読み解く世界情勢』ミネルヴァ書房（2021年2月発行）

第11回	
事前学習	開発の功罪について、自分はどう考えるか、整理しておく。
授業内容	「もう一つの開発／発展」という思想、それに関連する思想や実践について学ぶ。開発の負の影響によって生じた問題を解決するための努力や、反開発の立場などについて理解し、それが人々の暮らし

	にどのような影響を与えているかタイで行われている実践例について映像資料などを通じて学ぶ。
事後学習	内発的発展、持続可能な発展、参加型開発などの概要を調べておく。
参考文献	児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ：グローバル・サウスから読み解く世界情勢』 ミネルヴァ書房（2021年2月発行）

第12回	
事前学習	前回の授業の復習をしておく。資料を読んだり、インターネットで調べたりして、「もう一つの開発／発展」に関わる用語を理解する。
授業内容	タイにおける複合農法、女性グループの所得創出活動などから、自然に優しい、持続可能な発展のあり方について学ぶ。また、タイ社会における女性の位置付け、役割などについても理解する。
事後学習	タイの女性と日本の女性の経済的、社会的役割はどう違うか考えておく。
参考文献	児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ：グローバル・サウスから読み解く世界情勢』 ミネルヴァ書房（2021年2月発行）

第13回	
事前学習	世帯内、コミュニティ内での女性と男性の役割について考えてみる。文化、社会によって変わることになる。
授業内容	前回同様、タイの女性のコミュニティ活動について事例から学ぶ。コミュニティとは何か、また、その役割について理解する。
事後学習	タイの農村部における女性のコミュニティ活動について、まとめておく。
参考文献	児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ：グローバル・サウスから読み解く世界情勢』 ミネルヴァ書房（2021年2月発行）

第14回	
事前学習	女性を中心としたコミュニティ活動はどんな特徴があったか。このような活動があることの利点は何か、課題は何か考えておく。
授業内容	映像教材から、コミュニティ保健ボランティアの活動など、タイ農村部におけるコミュニティ福祉の企てについて理解し、コミュニティ福祉を実現させる条件は何か検討する。日本の場合はどうか、議論してみる。
事後学習	コミュニティ福祉と呼べるものが自分の身の回りにあるかどうか調べてみよう。それは家族福祉や行政による福祉とはどう違うのか、考えてみる。
参考文献	児玉谷史朗・佐藤章・嶋田晴行編著『地域研究へのアプローチ：グローバル・サウスから読み解く世界情勢』 ミネルヴァ書房（2021年2月発行）

第15回	
事前学習	これまで授業で学んだコミュニティの重要性について復習しておく。また、日本におけるコミュニティ福祉の概念について調べをする。
授業内容	コミュニティ福祉の実践事例について学ぶ。コミュニティを基盤とした福祉がコロナ禍、洪水などの災害のもとでどのように実践されているかを学び、東南アジアのコミュニティにおける人と人のつながり、また、日本にいるわれわれと彼らのつながりについて理解する。
事後学習	授業中に示された東南アジアにおけるコミュニティ福祉の特徴について整理し、日本と比較する。さらに全15回の授業をふりかえって関心をもった項目について、あらためて情報収集を行う。
参考文献	

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p>&lt;DP-1&gt;  【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】  社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p>&lt;DP1-(1)&gt;  日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(2)&gt;  情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(3)&gt;  問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(4)&gt; 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>
-----------	---